

就職にも
強い

SDGs、GLOBAL、DXなど 先進的なプログラムや地域・社会との連携強化で 女性の活躍を支える女子大学



宮城学院女子大学

社会連携プロジェクトと充実した
キャリア教育によって質の高い就職を実現

宮城学院女子大学はリベラルアーツを軸にしたカリキュラムを特徴としております。また学内外での地域連携活動も伝統となっています。その活動の一つが、今年5月に世界的に榮譽ある「ライオンズクラブ奉仕アワード」を受賞しました。

受賞した「さくらレオクラブ」は2017年にスタートした本学の奉仕団体であり、宮城県立こども病院に長期入院している子供達に絵本の読み聞かせを行ってきました。ところがコロナ禍で病院を訪問できなくなったため、オンラインで実施することを企画。具体的には子供達にタブレット端末を17台寄贈しましたが、その資金はクラウドファンディングで集めました。こうした取り組みが、世界各国のライオンズクラブで実施された4万8000件



学長 末光眞希

1980年東北大学大学院工学研究科電子工学専攻修了。工学博士。東北大学教授などを経て、2019年から現職。

の奉仕活動の中からベスト30に選ばれました。この取り組みのきっかけはコロナ禍で会えなくなった子供達に読み聞かせをしたい、という学生の切なる願いからでした。

このほか、「リエゾン・アクション・センター」では、ボランティア活動や大学での学びを生かした学生によるプロジェクト型自主活動をサポートするために、地域と連携して学生たちに実践的な活動と社会貢献の場を提供しています。

学生は教室で基礎的な理論を学び、社会という臨床の場でそれを実践する。この繰り返しによって学びを深められるだけでなく、自分自身の興味・関心についてじっくり向き合って考えられる。それが就活にもつながり、満足度の高い進路選択が可能になっています。

誰一人取り残さない
充実した就職支援

キャリア教育は全学共通基礎科目である「MGUスタンダード」で展開しています。オリジナルテキストを使つた「女性と人権」や「ライフワーク論」

などが特徴的ですが、ゲストスピーカーを招く全学生対象「キャリアアップセミナー」も学生に人気です。このセミナーではアナウンサーや作家、消防士など多様な分野で活躍する女性が講師となり、仕事のやりがいや苦労話だけでなく、人生の転機における意思決定についてもお話しいただきます。

3年次からは具体的な就職支援を実施。各種ガイダンスや企業説明会などのほか、内定を得た4年生向けに女性として知っておきたいハラスメント対策やビジネスマナー講座も開催。また、4年生が3年生の就活相談に応じる「ジュニアアドバイザー制度」も実施しており、服装やメイクなど、先輩による具体的なアドバイスが好評です。

キャリア支援課のスタッフもきめ細かにサポートしているほか、各学科に担当教員を配置して学生の就活の進捗を一人一人把握。保護者向けの就活セミナーも実施するなど、多方向からの支援により「誰一人取り残さない就職支援」を行っています。

2022年3月卒

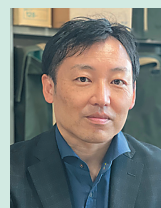
●就職率 **97.0%**
(就職者654名 / 就職希望者674名)

主な就職先企業

熊谷組 / セキスイハイム東北 / 東北ミサワホーム / TTK / パナソニックハウジングシステム事業部 / 仙台村田製作所 / アイリスオーヤマ / 東北電力 / 東北インテリジェント通信 / 東日本旅客鉄道 / アイベックスエアラインズ / 佐川グローバルロジスティクス / 富士フィルム ビジネスソリューションジャパン / カメイ / みやぎ生活協同組合 / イオン東北 / 仙台銀行 / 山形銀行 / 星野リゾート・マネジメント / 日清医療食品 / 富士急ハイランド / 東武トップツアーズ / 日本旅行東北 / 日本郵便 / 東北防衛局 / 仙台市 他

close up

企業や自治体と
連携しながら
多様な活動を展開



社会連携部長
西浦和樹 教授

本学は、自治体や企業などと協力関係を構築しながら、学生および教職員が地域社会と協働することを推奨し、地域活性化に貢献することを目指しています。2021年度は、プロテインメーカーと学生グループが女性アスリート向けプロテインの共同開発を行い、商品化されました。このグループは、リエゾン・アクション・センターがサポートしているグループであり、「理論」と「実践」の融合に、協働の精神が加わった、本学が目指す理想的な活動であると言えます。

また、コロナ禍によって中断していた国際交流活動を補うため、「SDGsバーチャルキャンプ」と称した東南アジアをオンラインで巡るセミナーを企画し、多くの学生が参加しました。

さらに、フィリピンを巡った際に、同国のストリートチルドレンやゴミ問題を目的とした学生たちが、現地の支援団体と連携し、ゴミを再利用して作られた雑貨のチャリティーバザーを開催しながらフィリピンへの支援を呼びかける活動が新たに発足するなど、活動の場は、世界にも広がっています。